

(8)タマネギ優良品種候補「月交7号」について

北海道農業試験場 作物第二 園芸作物第2研究室

1.試験のねらい

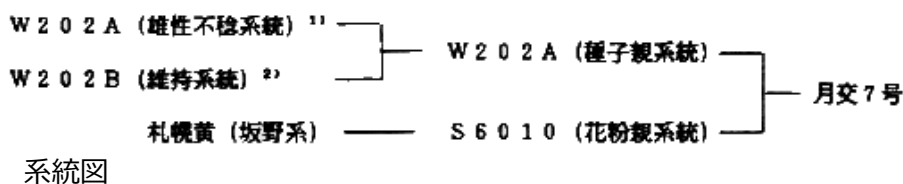
北海道農試で、昭和54年に育成し、すでに普及しているF1品種「フラヌイ」の改善点として、生産者及び市場から強く要望されている球の肥大性、球形、表皮特性を改善し、大球で貯蔵性の高い品種の育成を最終目標に試験を実施した。

2.試験の方法

本系統は、高品質、高貯蔵性、耐病性を育種目標として昭和49年に米国ウイスコンシン大学から導入した乾腐病抵抗性、高貯蔵性の細胞質雄性不稔系統「W202A」を種子親とし、昭和51年に「札幌黄(坂野系)」から選抜された「S6010」を花粉親として育成された単交配一代雑種である。昭和58年より育成場所及び北海道立北見農試、同中央農試において生産力検定並びに系統適応性検定試験が実施され、さらに昭和59年より北見、富良野、滝川、岩見沢、札幌の現地において適応性検定が実施された。

3.試験の成果

昭和55年より富良野市の乾腐病多発圃場で両親系統の同病抵抗性について検定を実施した結果、乾腐病抵抗性の他に、球肥大性、表皮特性の点で優れた一般組合せ能力を有することが明らかとなり、引き続き昭和58年以降検討の結果、表1に示すように早晚性は生育後半における球の肥大が旺盛なため倒伏期、枯葉期がやや醜く、「フラヌイ」を中生とすれば中生の晩に相当する。乾腐病抵抗性、貯蔵性は既存のF1品種「フラヌイ」と同程度に高く、最大の育種目標である球の肥大性は「フラヌイ」より勝り、収量が高く、特に球形は「フラヌイ」より甲高で、かつ表皮特性(表皮の色、皮むけ性)が優れ、総合的に良質・大球で貯蔵性の高い品種として実用化できることが確められた。本系統は低温や乾燥で初期生育がかなり劣る場合に長球及び変形球の発生が多い例が北見でみられたが、その他の結果は良好で道央を中心に速やかに普及できるものと思われる。



系統図

表1普及対象地域における試験成績概要
「フラヌイ」との比較

試験場所	年次	早晚性		耐病性		収量性				表皮特性	貯蔵性	
		倒伏期(日)	枯葉期(日)	乾腐病(%)	軟腐病(%)	規格内収量(kg/a)	同左比(%)	総収量比(%)	規格内率(%)	平均1球重(g)	裂皮率(%)	健全率(%)
北農試 (月寒圃場)	58	+2	±0	±0	+0.4	663	101	100	+1	+1	-0.9	-
	59	+1	-1	+0.2	±0	385	107	104	+2	+3	±0	-1.2
	60	+4	±0	-0.2	+0.2	589	110	108	+2	+15	-1.0	-10.8
北農試 (富良野圃場)	58	+4		+0.7	+0.4	701	105	106	-1	+26	-0.9	-
	59	+1		+1.5	±0	513	129	126	+2	+37	-1.1	-4.9
	60	-2	-3	±0	±0	698	114	110	+3	+21	-1.8	-16.7

北見農試	58	+11	+4	+0.4	-2.1	687	115	119	-3	+33	-6.3	-
	59	+1	+1	+0.9	±0	434	102	101	+1	+10	±0	+8.7
	60	+4	+9	+1.5	±0	482	96	107	-9	+23	±0	-9.9
中央農試	58	+3	±0	+1.3	±0	546	121	112	+11	+12	-2.9	-
	59	±0	±0	-2.7	-0.9	362	106	100	+5	-7	±0	-13.0
	60	+5	±0	-0.2	+1.1	407	113	101	+9	+2	-3.7	-1.0
北見現地圃場	59	-1	-	+0.7		521	112	114	-2	+21	-0.4	
	59	+2	-1	+2.4		379	133	120	+11	+30	±0	
	59	+1	-	+1.4		439	109	108	+1	+13	±0	
	60	+8	-	-0.5		560	111	109	+2	+17	-1.7	
富良野現地圃場	59			+3.5		497	101	101	±0	+22	±0	
	59			±0		546	116	116	±0	+38	±0	
	60			-2.6		770	100	102	-2	-12	-1.9	
	60			-0.7		616	106	105	+1	+4	-1.3	
滝川現地圃場	59	+3		-0.2		307	84	86	-2	-14	-0.2	
岩見沢現地圃場	59			+6.5		513	131	122	+6	+38	+3.5	
	60			+2.7		572	127	121	+4	+25	-3.6	
札幌現地圃場	60	+5	-3	+2.0		664	111	107	+4	+21	-4.3	
平均		+3	±0	+0.3	-0.1	556	113	110	+1.9	+18	-1.2	-2.9
				+1.2								

栽培上の注意:「フラヌイ」の栽培法に準ずる。なお、播種に当ってはやや小粒種子であるので、密播とならないように注意する。

1)花粉が不稔で、雌しべが正常であるので他の優良系統との混植により、除雄なしに100%一代雑種種子が得られる。

2)W202Aを維持するための花粉親系統。

[目次へ戻る](#)